会　議　録

会議の名称	令和３年度 第３回持続可能な循環型社会の構築に向けた研究会
開催日時	令和４年１月 18 日(火)　　14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	長岡市消防本部庁舎４階研修室
出　席　者	【委　員】 上村会長、丸山委員、君波委員、白井委員、片桐委員、藤田委員、平澤委員、小坂井委員、市原委員（WEB：代理者）、馬場委員(WEB)、坂東委員（WEB）林委員 【オブザーバー】 増田環境対策課長(WEB：代理者)、三枝地域エネルギー推進課長(WEB)、小浦新エネルギー部長(WEB)、山田教授、山本准教授 土屋地球環境対策室長(WEB)、覚張新エネルギー資源開発室長（代理者）佐山乗合バス課長
議　　題	１　開会 ２　あいさつ ３　調査研究に関する中間報告 （１）長岡市における再生可能エネルギー導入促進等に向けた調査研究 （２）中山間地域における産業創出に向けた調査研究 ４　議事 （１）2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた提案（素案）について （２）意見交換 ５　閉会

会議内容

＜１　開会＞

○事務局

第３回持続可能な循環型社会の構築に向けた研究会を開催します。

主催者であります長岡市政策監、野口よりごあいさつ申し上げます。

＜２　あいさつ＞

○政策監

（あいさつ）

＜３　調査研究に関する中間報告＞

〇事務局

次第の３「調査研究に関する中間報告」に移ります。長岡市が長岡技術科学大学に委託しております調査研究の進捗状況について、長岡技術科学大学 技術科学イノベーション専攻、山田昇教授および、生物機能工学専攻、山本麻希准教授から、ご報告いただきます。それでは、はじめに、「長岡市における再生可能エネルギー導入促進等に向けた調査研究」について、山田教授、よろしくお願いいたします。

〇山田教授

（資料説明）

〇事務局

それでは、続きまして、環境型産業創出に向けた調査研究について、山本准教授、よろしくお願いいたします。

〇山本准教授

（資料説明）

＜４　議　事＞

（１）2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた提案（素案）について

〇事務局

次第の４、「議事」に移ります。議事の進行については、上村会長よりお願いいたします。よろしくお願いいたします。

〇会長

資料について、事務局の方から説明をお願いします。

〇事務局

（資料説明）

〇会長

それは、ご質問やご意見があれば、伺いたいと思います。

〇委員

感想を含めまして、お話をさせていただきたいなと思います。現状を踏まえた課題のところでは、例えば環境と経済の好循環が必要なんだということが、まず前提条件になるかと思います。そして、その取り組み効果を地域に還元していくんだという、要するに、暮らしが豊かになって

いくんだという実感が地域市民に伝わっていかないと、なかなか回らないんだろうなということを予見されるようなお話でありました。

木質ペレットの利活用の現状としては、以前実施していた設備導入補助制度が無くなっています。ペレットストーブだけを売ってても、なかなかうまくいかないです。山元の原木はどうなってるんだとか、加工はどうなってるんだとか、市民がそれをどうやって選択するんだとか、そこが全部そろって、つながっていかないと、木質バイオの一つの活用のありようを描いたとしても、回らない、お金にならない、続かない。これが、実際には結果だったんじゃないかなと思っております。

だから、いろんなプロジェクトの後ろの方に一つ一つ流れが動いていくための文脈を描きながら、「これだったら、いけるんだ」と特に長岡の地域性に合ってるとか、長岡らしさがここで描けるんだというところが、選択肢、優先順位になっていくんじゃないかなと思うわけでありますけども、そこのところが抜けてしまうと、絵に描いた餅に終わる可能性があるのかなということで、ちょっと心配をしながらお話を伺っていました。

私がもう一つ言いたいのは、事業所・企業向けにエネルギーの転換というような形で、新しい技術で、これも素晴らしいんですけども、「市民協働」という言葉がさっき出てきておりましたけど、市民がそれをどうやって受け止めて、行動変容に繋がり、カーボン・オフセットのようなエネルギーに代替したものを選ぶかどうかというところが、目下の一番のポイントになるんじゃないかと思います。そういう意味では、意識転換、行動変容を進めるためには、何か一つの旗印、分かりやすい言葉として、前から「ロハス」なんて言葉がありました。「人間にも環境にも優しいライフスタイルを」というコンセプトが提起されていたわけですけど、この研究会の中でいろいろ吟味されてく中で、長岡らしさ、長岡の特性という中で、「長岡ロハスって何なのか」というような一つのキャッチコピー的な形で、市民にメッセージを出していくことができるか、できないかというところも、多分、次回の研究会でのテーマの絞り込みにもつながるかもしれません。長岡は自然が非常に豊かでありますので、そこから、オーガニックであったりとか、地産地消であったりとか、環境配慮型のライフスタイルだったり、エコ住宅、エコツーリズムとか、そういうさまざまなところにつながりながら、「長岡ロハス」というのが果たして提起できるかどうかっていうところが、ちょっと夢もあるんじゃないかなと思いながらお話を伺っておりました。

〇会長

ありがとうございました。どんなにいいことを掲げても、皆さんがイメージできないものの実

現は難しいです。なかなか入らないというのがあります。だから、今の「長岡版ロハス」という表現が皆さんから同意いただけるかどうかは別にしても、そういう考え方で、長岡市民のまさにライフスタイルと書いたそのものが、どんなものなのかという絵を作ってかなきゃ、全くイメージできないんだろうなと。掛け声ばっかりになっちゃうんじゃないかなというのは、ご指摘のとおりかなと思って、伺っておりました。

それと、個別に「こういうことはやった方がいいよ」っていうのは幾らでも出てくるんですけど、最初のお話のように、「ペレットを入れようか。でも、いろんな経緯があって止まっちゃってる」とか、典型だと思うんですけども、需要から供給までっていうところの総合的な視点で見ていかないと、需要側にどんどん補助金入れても、回らないものは回らないです。むしろ、トータルとしてどうやったら回るのかっていう総合的な視点で見ていって、そのうえでのどういう流れを作っていくのか。そういう循環の中での総合的な視点が必要になってくるっていうご指摘だろうなと理解して、聞いておりました。

〇委員

立派に、完成版に近いような形で研究会の素案についてまとめられてるかと思うんですが、全体的な感想のような話になりますけど、研究会の冒頭に会長の方から、「実際に具現化していきたいね」というお話があったように記憶しております。まさにそのとおりに私も思っておりまして、案文の中に「産学官連携で、市民協働による実施」っていう、やり方について提言されてるんですけど、もう一歩進んで、じゃあ、これを進めていったときに具現化する、例えばどんな組織でやるんだとか、どんな資金調達するのかとか、そういうことが最終的にボトルネックになってきたりする場面もあろうかと思うんですね。それで、全国的にもそうなんですけど、新潟県内にも、既に地域エネルギー会社とか、インフラの官民の協働とか、事例がございまして、企業方針で上下水のアセス化といった事業をこんな形で実施されてきたんじゃないかなと思います。プラスチックというのも、実はいろんな取り組みが全国でされてまして、汚れたプラスチックを水素にしちゃうとか、そんな研究も始まってるんですが、とにかくお金がかかるんですね。

そんなものを具現化しないといけないっていうことをわれわれは恐らく考えてるので、バイオマス発電にしてもそうですけど、もう一歩踏み込んで、長岡技大中心で、長岡市と民間と、例えば最初に会社を作るという仕掛けが必要なんじゃないかなと感じております。

〇会長

ありがとうございました。あと、一つ、2050 年っていうターゲットは決まっておりますので、いろんな話があるんですね。いろんなチャレンジがあって、いろんな可能性があって。ただ、研

究段階なのか、実証段階なのか、2030 年に向けて、10 年後に開発されるかもしれないものを、今からなかなか入れにくいなんていうのもあります。そのあたりの将来的な新技術でもいいんですが、実現可能性というところも少し踏まえつつマイルストーンを置いていかないと、「待ってたけど、だめだったね」って話になりかねない。それから、さっきの太陽光なんか、「ちょっと待ってたら半額になるかもよ」っていうお話もありましたので、10 年後には期待できるアプローチとか、そのあたりのところも時間軸の中で見てくと、より具体的になるのかなっていう気がしました。

○委員

まずは今回の案でございますけれども、おおむね大変よくまとめられて、よかったなという感想でございます。その中で一つ、やはり研究会が実施されて、そのあとにわれわれと長岡市様と、どう関わっていくのかっていうものが見えるようにならなきゃいけないかなというふうに、私どもも痛感してるところでございます。

そんな中で、ちょっと細かい内容になるんですけれども、長岡版の自律分散型エネルギーシステムの構築ですとか、大きなエネルギー関連の視点で少し質問をさせていただきたいと思うんですが、資料５の中の 27 ページにＡ３の７分野のものが取りまとめてられておりまして、大変見やすくていいなと思ったところでございます。その中で、５の行政部門のところに目を向けると、ここには記載されていないのですが、34 ページの具体的施策の中に、５の③に「地域クレジット制度の導入促進」ということで、まさに大きな変化もありますし、これから具現化していけるかどうかというような一つの課題でもありますので、27 ページの行政部門の方にも記載をしていただいて、分かりやすくしてはいかがでしょうか。

あとは、産官学の連携をしっかり進めていって、何か形にできたらいいな思っておりますので、その辺も踏まえて、ぜひ事務局の方でご検討いただければと思います。

○会長　ありがとうございました。

○事務局

ご指摘、ありがとうございました。基本的な考え方の中でもお示しさせていただいたとおり、やはり市民協働で進めていく、産学官で進めていくということが非常に重要なポイントになってくると思いますので、ご指摘のとおり、主体でありますとか、市としての支援でありますとか、その辺については、修正をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○会長　ありがとうございます。

○オブザーバー

私がいつも行ってる場所というのが、ほとんどが中山間地域といわれるところで、長岡は、旧市街地は非常に人がいて発展してるんですけど、支所地域はものすごい人口減少をしていて、今日お話ししたようなバイオマスの基となる資源は、実はそっちにみんなあります。実態としては、みんな放棄されていて、不在地主になっているという状態です。

一度増えてしまった人口がこれからどんどん減っていくというところで、恐らく農村計画っていう分野に当たると思うんですけど、このままインフラを、石油を使って維持していくのか、それをある程度のところで集約化していくかっていう大きなビジョンって、すごく大事になってくると思います。その中に、地域の資源を使うためにどこに拠点を置いて、例えば熱循環を作るようなローカルな田舎の拠点を作るのかとか、大体まちづくりとか都市計画で載ってるんですけど、その外の分野のことって、誰も集約することを考えてないことが多いです。今日みたいなお話の中には、いかに無駄を今後、集約するかっていう議論を必ず入れる必要があり、その視点がちょっと抜けてるのが非常に気になっております。今後、中山間地域も含めた、長岡市は非常に広いですので、田舎の人口減少や、インフラの集約と拠点づくりという視点も入れて、ぜひこちらの最終的なゴールを目指していただきたいと思います。

〇会長

ありがとうございました。

〇委員

資料４で、Ｉ「長岡市民のライフスタイルの転換」と言っていて、最初に「食の地産地消」という言葉が出てきております。長岡については、反対側の方に「全国有数の米産地」ということで、これは確かにそうなんですけれども、実は米単作地帯でして、園芸品目など、そういったものに対しての地産地消的ないわゆる自給率は、そんなに高くないかと思います。どうして園芸の方が盛んにならないかというと、冬場の日照不足や、熱の問題もあります。

それともう一つ、プラスチックの再利用というところで、パイプや農薬のボトルとか使っておりますけども、それは石油原料になるかと思いますが、産業廃棄物として処分されていると思います。長岡は山とか川とか海とかバランスよく持っている所でして、今、言われたように、中山間地とか山の方がないがしろになっていて、実はそこにヒントがあるんじゃないかなと思っております。これは夢物語なんですけども、例えば木材ペレットというのは、家庭用の燃料というのもありますけれども、園芸ハウスとかに熱源として冬場のものに使えるようになれば、園芸によって、農業人口の増加など、若い人にとっても魅力のある産業になっていくかと思います。

それから、地産地消という点では、外からエネルギーをかけて入ってくるわけですので、そう

いったものを熱化して、熱なのでＣＯ２が出るかと思いますけれども、そういったものを、私もいろいろ見聞きするなかで、水素とかをくっ付けることによってガス化したり、そのガスをまた原料にしたりというふうな。あるいは太陽光パネルも、蓄電のところでは水素電池の方が、放電率が低いというふうな話もあるので、そういったのを含めて、私はそんなに詳しくはないんですけれども、そういった人たちが長岡にはいて、つながれるのではないかと思いますので、できれば長岡市さんの方でメニュー化していただいて、より具体的な政策を打ち出してもいいのではないかなと考えております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

先ほど会長がおっしゃった中で、私もすごく賛同できるんですけど、流れを変えるっていう中で、まだ全部埋まってないっていうことで、具体的にどうイメージさせてあげるか。

今日はオブザーバーで交通部門の関係者の方がいらっしゃるんですけども、例えば、我慢しなきゃいけないものが出てくる。テレビで「グレート・リセット」という言葉を使っていました。もう車を「乗らない」ではなく、できるだけセーブしましょうと。そのときに、長岡市は、駅が中心ですから、そこからバスが走ってる。今、中国の電気バスが１台 2,000 万ぐらいで買えると聞きました。それに自転車を乗れるようにするとか、そのうち無人で走るでしょうと。これはそんなに難しい話じゃないと思うんですね。５年、10 年でもできるかもしれませんけど、そういうイメージをもっとさせてあげるのが、この後半の方についてくるといいなと。

もっと若い方の意見っていうんですかね。「われわれはこうしたい」っていうのがあると思うので、その辺を、またどこかで吸い上げる場を作ってもらいたいなと思ってます。

○会長

ありがとうございます。

○委員

資料５の３を拝見いたしました。大変ご苦労されてますけれども、２、３気になったところがあります。長岡市の現状分析で、ＣＯ２の排出量とか、エネルギー消費量については説明されているんですけれども、最終的な具体的策に持っていくために、例えば自然であるとか、環境がどうであるかとか差し入れて、あと、社会のインフラがどういうふうになってるか。前の研究会でもお話しさせていただきましたソフト改善の話だとか、データの話だとか、そういった背景のところも、少し欠けてるのかなというふうに感じています。

それから、再エネのそれぞれの強み・弱みについて、少しざっくりしているかなというか、簡単にまとめられすぎているんじゃないかなと感じたところであります。やはりこの辺の長岡らしさをもう少し踏み込んで、市民に伝わるように、「長岡市、こんな良いところがあるんだよ」と。「こんな環境があるんだよ。だから、こういった再エネを使うんだよ」というようなストーリーにしないと、なかなか最後の具体策のところに結びつかないんじゃないかなと感じたところです。

最後は、資料の長岡市のイメージですかね。分野ごとにありますけども、総合的に、このタイトルの「2050 年の当たり前」というのが、どんなものをイメージされるのかっていうところですね。さまざまな再エネとか省エネとか、いろんな技術を一覧表にしたのはいいんですけれども、それを組み合わせて、長岡市がどんな町になってるのか。前もお話ししましたけども、何か夢のあるような絵が描けたらいいかなというふうに思っています。

〇会長

ありがとうございました。

〇委員

長岡らしさっていうと、私、長岡ですごいと思ってるのが、実は小・中学校が 54 校もあって、米百俵の気概といいますか、長岡の特徴だと思うんですよね。例えば、10 歳の子が 20 歳になるのにあと 10 年あって、28 年でまだ 18 年も余るわけで、小・中学校で教育していくというのも遅くはないと思います。私が聞いた話だと、学校別に、環境に興味ある小学校なら見学などいろいろしてるんですけど、そうでないところは一切行ってないっていうか。全体として、この研究会のやってることを教育の場でやっていただければ、長岡らしいというか、「教育のまち、米百俵のまち長岡」ということで育って、大人になった頃には、すごい効果が出るんじゃないかなと思います。

〇会長

素晴らしいアイデアをいただきまして、先導事業は、全部学校でいきましょう。学校から入れてくっていうのは確かに、子供たちにとっては、それが当たり前で学校生活過ごすわけですからね。

〇委員

それと、やはり食を残さないというか、廃棄物出さないってことで全部食べるとか、そういう教育もされてると思うんで、生ごみも、よその地区に比べて少ないと思うんですけど。たくさん出れば、バイオマスはいいかもしれないですけど、やっぱり食べた方が一番いいわけで、これは

やはり教育だなと思うんです。

〇会長

ありがとうございました。

産官学の「学」が、大学だと思ったら小・中学校だったっていう話ですけど、長岡市内の小・中学校は、当たり前にそこで過ごすことで資源循環が理解できるようになる。そこに当たり前に入ってる。石油のストーブなんか全部取っ払って、全部ペレットにするとか、それぐらいの思い切ったことをやりましょうという話ですよね。

〇委員

取りまとめに向けた基本的なコンセプトとしては、非常によくまとまってるなと思います。今ほど来お話があった、長岡らしさという部分、これがもちろん非常に大切だと思いますし、一方で、資料４のＩ「長岡市民のライフスタイルの転換」ということで、地産地消、食品ロス、公共交通、プラスチック、カーボン・オフセット等々について、項目だけを見れば、よその市も他の県も、全国的にやることがあるなと。それはそれでやらなくちゃいけないんですけど、地域の特徴としては、それを取り組む上での地域の事情があって、多いとか少ないとか、苦しいだとか楽だとかっていう事情があるので、長岡の現状というものをしっかり踏まえたうえで、よそもやることですけども、長岡市としてのやり方。そこをどういうふうにやっていくかというのが、非常に大事なことかなと思います。

あとは、まさに長岡市の特徴を踏まえた取り組みというものも、それはそれでやっていくということになりますけども、いずれも行政だけでやれるものではございませんし、市民一人一人の啓もうから始まって、究極的には国全体、国民一人一人が意識を持って取り組むということが非常に大切なことだと思います。そのうえで、こういった方向性で具体的な施策を展開するに当たって、この研究会自体は第４回が最後ということになりますけれども、行政とわれわれ民間事業者ということの中で、施策展開に当たっての意見交換とか、そういった場が、何かしら設けていただけると非常にありがたいなと思ってます。

〇会長

ありがとうございました。ぜひ「継続的に意見交換の場は設けていく」って書きたいです。やはり役所だけで実現できる話じゃないので、いろんな方々に継続的にご意見を伺いながら、あるいは、一緒になって何かやるっていう場をうまく作っていくというところは、是非入れてください。それと、文章の中で長岡らしさが弱いと。平たく言うとそういうことだと思いますので、長岡らしさというところをもう少し本文の中でも入れ込めないか、ご検討いただければと思いま

す。よろしくお願いします。

〇委員

私、初めて参加させていただきまして、2050 年に向けた考え方というのは、非常に素晴らしいと思います。ただ、やはり 50 年、30 年後といいますと、なかなか皆さん想像しにくいと思います。「30 年後どうなってるのかな」っていうのは、一般の方々でも想像しにくいと思いますし、特に昨今、エネルギーを取り巻く環境は、非常に急激な勢いで変わってきております。そういった中で、次のステップにはなるかと思うんですけども、５年後にはどうしているんだろう、10 年後にはどうしてるだろうといった「マイルストーン」をしっかりと示してあげることによって、市民の方々もより身近に感じられるんではないかなと思いました。なので、次のステップで、中期的なプランというのもしっかり示してあげた方がいいと思いました。

〇会長

ありがとうございます。本当に大事なことですね。今、とりあえず「2050 年カーボンゼロ」を目指すんですが、途中ですね。５年、10 年、20 年ぐらいの「マイルストーン」のイメージを、書けるところは書いていきましょうというご提案かなと思います。

〇委員

今までのお話を聞いてて、すごく壮大な目標ができてるんだなと感じました。私達が協力できるところは、建物、建築物の省エネということになりますけど、ＳＤＧｓについては、そんなに活発な動きはなかったのが、今になって誰もが口にするような内容になっていると思います。一つは、子供が大人に「ＳＧＤｓ知ってる？」みたいな話をする。これは、小学校とか中学校のＳＤＧｓの授業で勉強して、それを子供が伝えているという流れがあるそうです。

そういった面では、やっぱり脱炭素とか省エネっていうのは、われわれが頑張って進めるところなんですけど、いかにみんなを巻き込むかというところだと思うので、30 年後とか 20 年何年後とかっていう話になると、今の小さな子供たちですね。そこをいかに取り込むかが大切です。先ほど、産官学の「学」は小学校に行くという話がありましたけど、まさにそのとおりで、そこを取り込んでいくというか、洗脳じゃないですけど、これからやらなきゃいけないところを理解させていくのにどうしたらよいかと感じました。まだまだやらなきゃければならないことはあるとは思いますけど、いかにみんなを巻き込むかというところが重要だと感じました。

〇会長

ありがとうございました。

〇オブザーバー

いろいろとお話出てましたけども、地域特性を生かしながら地域の課題解決につなげていくというのは、国としても目指す姿かなと思いますので、非常に長岡市らしさをフォーカスしていただいてるので、いい方向なのかなというふうに思っております。自分事にしていただくという意味では、小学校で取り組むとか、そういった点はいいアイデアなのかなと個人的には思いましたので、いい形でまとまることを期待しております。

○会長

ありがとうございました。

○オブザーバー

具体的なプロジェクトをどう作っていくかというところが、今後、大事になってくるんだろうなと思います。

一つ一つのプロジェクトっていうのは、お金もそうですし、人の知恵もそうですし、相当手間をかけていかないと、世の中に出ていくとか、利用されるような仕組みにならないんだろうなと思います。そういった点は、いろいろ後で関係者の皆さんと、ユーザーの目につくかっていうことだと思います。

○会長

ありがとうございます。

○オブザーバー

皆様方のご意見をお伺いしまして、非常に意見が活発に交わされておりまして、素晴らしい会だなと感じているところでございます。一番ＣＯ２を削減する方法としては、バスに乗っていただくっていうことが直結するところだとは思います。それが叶えば、私どもも、お客様のご乗車が少なくなったということで減便をすることなく、通常にお客様の利用が見込めるようであれば、増回、増回ということで、回数を増やして運行させていただくというのが理想ではあるんですが、なかなかそこまでは行けないかなというのは、現実、感じているところでございます。

その中で、私どもの方も今、研究を始めているところではあるんですけれど、ＥＶバスということで取り組みをしておるところです。ただ、皆様方もお分かりのとおり、どこが問題になってくるかということになりますと、まず費用が高いということで、通常のバスのおおよそ２倍ぐらいの費用がかかるところです。それと、長岡という雪国にＥＶバスが合うのかどうか。その辺の研究をしているところです。バッテリーを使うような格好になりますので、気温が低い時に、バッテリーが果たしてしっかりと起動するのかどうか。それが懸念されることではありますし、先日、センター試験っていうことで私どものバスを運行させていただきましたが、長岡市の除雪

本部の方や、国・県の方々が路線をかなりきれいにしていただいたので、運行に全く差し障りはなかったんですが、これからどんどん雪が降っていくと、圧雪っていうことで路線が悪くなるケースがあります。そのときに、がたがた道を走ったときに、しっかりと電源がモーターにつながるのかどうか。その辺が心配されております。

あと、導入されているバス会社の方からお伺いした内容なんですが、ＣＯ２を削減するという目的でＥＶバスの導入をされているんですが、私どもよりも北の所で営業されているバス会社があるんですが、暖房の問題がありまして、私どもの方も、皆さんご乗車されている通常のバスでもお分かりかと思うんですが、大体足元に三つ四つ、お客様から寒さを感じることがないように、ヒーターの設置をしております。その設置は必ずＥＶバスも必要ということなんですけれど、それを電気で賄うことができないということで、ヒーターを軽油で動かしているということで、ＣＯ２を削減しながらＣＯ２を排出してしまっているという、そういう状況を作り上げてしまったというお話を聞いているところです。

ですから雪国にはなかなか合いづらい車両、車種ではあるのかなとは思っておりますが、私どもも指をくわえて見てるわけではありませんので、これからまた研究を進めていきたいと思いますし、先ほど「小学生が」ということでお話がありましたけれど、ＥＶバスが導入されますと、広告塔としても非常に分かりがいい車両になるかと思います。そのときに、学校教育ということで各小学校に回ることによって、その辺の認知を深めて、興味を持っていただけるきっかけにつなげられるかなと感じているところでございます。

〇会長

ありがとうございました。

〇オブザーバー

非常に目からうろこが落ちたという感じを受けておりまして、実は私どもの方でも、環境部局が中心となりまして、2050 年のカーボンニュートラルに向けて、どういうことをやっていくかということを練っているところです。

私どもは、その中でも再生可能エネルギーの部分とかを検討させていただいてるんですけども、今日皆様方からいただいた生の声っていうのは、今後の施策を進めていく上でもものすごく参考になるお話ばっかりいただきましたので、ぜひ今後、政策を進めていく際にも、もしかしたら別途お話を伺いに、お電話なり、させていただくかもしれませんけども、その節にはよろしくお願いしたいと思います。参考にさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。

今日は私も、すごくいろんな刺激的なお話をいただきまして、勉強になりました。会の名称の「持続可能な循環型社会の構築に向けた」っていう、ここなんですけども、循環型というのが、いろんなこと書いてありますけれども、もちろん資源の循環でもあるんですが、私はお金の循環でもあると思っています。お金ということもありつつの経済の循環ということも含めてでないと、世の中の仕組みにマッチしない。お金の循環に逆らった資源循環というのは、かなり難しい。過渡期にあって、上手に公的資金を入れながら、循環の道筋をパイプの付け替えをやるとか、最初の呼び水をやるとか、そこは大事なんだけれども、ゴールでは、資源と同時に、お金もちゃんとよどみなく流れていく、回っていくというイメージを作っていかなきゃいけないだろうなというのを、皆様のお話からつくづくと感じておりました。

それから、個別の議論にどうしてもなりがちなんですけれども、役所っていうのはそういう性質もあるので、そうなりがちなんですけれども、やはり供給側の議論。それから、需要側の議論。両方をセットでいかないと、例えば、森林組合が頑張って幾らペレットを作っても、誰も使ってくれなかったら何の意味もないわけで、供給の議論だけではなくて、需要を作る議論をセットでやっていかないと、なかなか仕組みとして安定しない。だから、その両方の議論をしながら、どういうチャレンジをするか、どういう一歩目を踏み出していくのかというところを、次回に少し、何となくイメージができるような形の提案ができるといいかなと思っております。

進行を事務局の方に返したいと思います。

＜５　第４回研究会について＞

○事務局

ありがとうございました。次第の５「第４回研究会について」に移ります。

（説明）

＜６　閉　会＞

○事務局

それでは、以上をもちまして本日の研究会を終了いたします。

本日はお忙しいところ誠にありがとうございました。